

ブッポウソウはどこにいるの？

ブッポウソウは、近い将来、絶滅の危険性が高い鳥類として、絶滅危惧ⅡB類（環境省版レッドリスト）に分類されています。

なぜブッポウソウは減少したのか・・・？

- ①ブッポウソウは、キツツキと違って自分で木に穴を掘ることができません。キツツキが使った後の古い巣、樹洞（木の穴）などを利用して、子育てを行っていました。
- ②山の環境が変わったのが、木製電柱の方がいい環境だったのか・・・
ブッポウソウは、木製電柱にオオアカゲラというキツツキがあけた穴を利用するようになりました。
- ③しかし、1980年代に電柱が木製からコンクリート製に交換されて、巣穴を失ってしまいました。
- ④巣を失ってしまったブッポウソウは、子育てができなくなり、減少していきました。
- ⑤このままでは、ブッポウソウがいなくなってしまうと、電柱に巣箱をかける保護活動が始まりました。

国内の生息地

岡山県、広島県、鳥取県の中国山地では、水田の広がる人里の電柱に巣箱かけを行っており、個体数が増加しています。

吉備中央町では、約300羽が飛来してくる、国内でも有数の繁殖地です。2011年は、約450羽のヒナが巣立ちました。

長野県や新潟県など日本北部では、環境は異なり、ブナ林や鉄橋などの人工物に巣箱かけを行っていますが、個体数があまり増えていません。

国内4箇所、「ブッポウソウ渡来地」として天然記念物に指定されています。（岐阜県奥原神社、長野県御岳神社、宮崎県狭野神社、山梨県南巨摩郡身延町）

しかし、今はどこも姿を見ることはできません。このような地域では、樹洞が減少していったことや周りの環境の変化が原因と考えられます。

ブッポウソウが好む巣箱の環境

水田や川があり、近くに親鳥が見張りをできる小高い山や木があるような開けた場所で、山の中ではなく、人里を好みます。

巣箱の設置場所

警戒心の強い鳥なので、テリトリー（縄張り）を考えて、巣箱間の距離は約300mほど離す必要があります。生木や近くに樹木がある場所は、ヒナを食べにヘビがやって来るので、設置には適しません。電柱に設置された巣箱は、町がNTTの許可をもらっています。

巣箱の管理

毎年、町と協働して日本野鳥の会岡山県支部が秋（10月各土曜日）に巣箱の掃除、繁殖の確認、補修などを行っています。

ブッポウソウは、巣箱の掃除をしません。ヒナの糞やペリット（吐き出したもの）をそのまま残して、巣立ちます。その他にもフクロウなど樹洞で子育てする鳥も掃除を行いません。自然界では、その残った糞などを微生物が分解していきます。

ブッポウソウがずっと子育てできるためには・・・

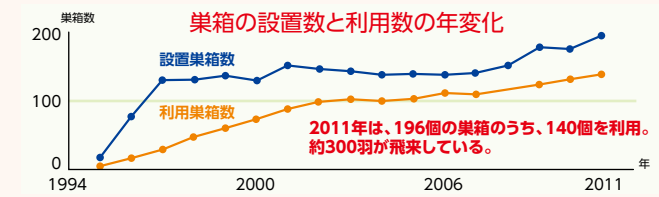
色鮮やかな青い羽で大空を舞う美しい姿から「森の宝石」と呼ばれているブッポウソウ。人の手が入った里山の環境を好んで、子育てを行います。巣箱かけと同時に、昆虫の生息場所である里山にも目を向ける必要があります。私たちの町で、ブッポウソウがこれからもずっと子育てができるように、みんなで静かにそっと見守っていきましょう！

吉備中央町の保護活動

保護活動の歴史ー日本野鳥の会や町などの取り組みー

1988年	●日本野鳥の会岡山県支部が岡山県下で生息分布調査を開始し96羽を確認 ●加茂川町で19羽を確認
1990年	●巣箱かけの実験開始（～1991年）
1992年	●町とともにNTTの電柱に巣箱かけを開始
1994年	●巣箱の清掃や補修を開始（以降毎年実施）
1995年	●町の鳥に指定（～2004年）
1997年	●町全域を繁殖地として町文化財（天然記念物）に指定
2004年	●加茂川町と賀陽町が合併し吉備中央町が誕生、保護活動の継続を決定 ●賀陽地域に巣箱かけを開始

2006年	●高円宮妃久子殿下をお迎えし、「ブッポウソウ保護フォーラム in 吉備中央町」が開催される ●信州大学がヒナのエサの調査を開始（～2007年）
2009年	●岡山大学がビデオカメラを利用して繁殖生態の調査を開始
2011年	●賀陽地域に新たに20ヶ所設置し、町内の巣箱数は約200個になる



おすすめの観察ルート

ブッポウソウに出会うのにもっともいいのは、7月の子育ての時期です。せっせと餌を運ぶ親鳥を観察することができます。他の地域にも巣箱は設置されています。



ブッポウソウを観察する上で、以下のことを守って下さい。
一番恐れるのは繁殖場所である巣箱に長時間注目する人間です。

観察するときの注意点

- 1) 観察や写真撮影は、必ず巣箱から50m以上離れて下さい。
- 2) 1)の項の場合でも20分以上留まらしないで下さい。
- 3) 許可なしに水田のあぜ、畑へは絶対に入らないで下さい。
- 4) 民家近くで観察する際はその家に声をかけて下さい。
- 5) 狭い道路が多いので交通の邪魔にならないよう注意して下さい。また狭い農道に車を乗り入れないで下さい。

お問い合わせ・連絡先

吉備中央町役場 協働推進課
〒716-1192 岡山県加賀郡吉備中央町豊野1-2
TEL.0866-54-1301
FAX.0866-54-1311
監修：岡山大学大学院自然科学研究科 水野聖子

KIBICHUO

私たちの町にやって来る ブッポウソウ



岡山県 吉備中央町

保存版
2012

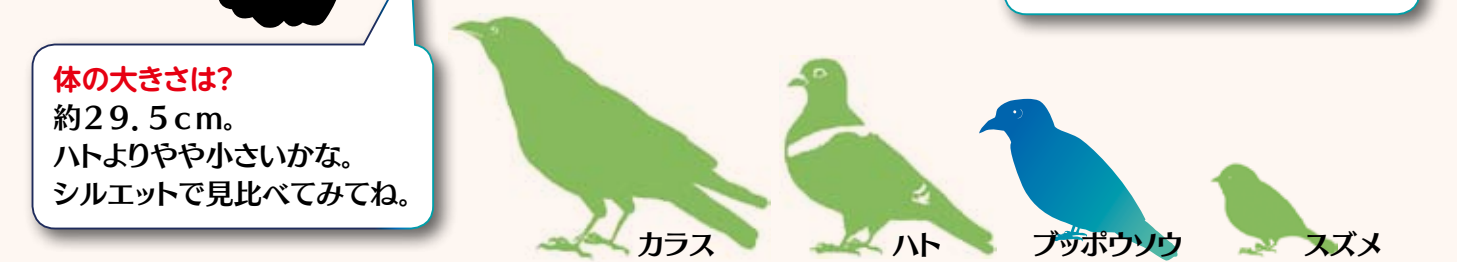
ブッポウソウに聞いてみよう！

名前の由来は？
“ブッポウソウ”と鳴くと勘違いされて、この名前がつけられたんだ。
平安時代から、“仏法僧”と鳴く霊鳥とされ、詩歌に詠まれていたんだけど、実際に鳴いていたのは、フクロウの仲間のコノハズク。1935年に撃ち落されて確認されるまで、間違えられてきたんだ。どちらも、数が少なく珍しい鳥で、生息場所が似ていたから仕方なかったのかも。今でも、コノハズクのことを“声のブッポウソウ”、本当のブッポウソウのことを“姿のブッポウソウ”と呼び親しまれているよ。

鳴き声は？
ゲッ、ゲッ、ゲゲゲーゲゲゲッ！
一度聞くと忘れられない声だから、すぐにわかるね。

同じ仲間？
カワセミ、ヤマセミ、アカショウビンだよ。

体重は？
約150g。野球の硬式ボールと同じくらいなんだ。
メスの方が、約170gとオスより少し重いんだ。



世界でのブッポウソウの生息地



東南アジア一帯とオーストラリアまで生息しています。
ブッポウソウは、さらに細かく8亜種に分類できて、日本にやって来るのは、1亜種（calonyx）のみ。オーストラリアで子育てしているブッポウソウとは、違う種類です。
昨年、日本で子育てしたブッポウソウが、ボルネオ島北部で越冬していることがわかりました。今後、渡りのルートなど新しいことがわかってくるかもしれません。

ブッポウソウの子育てをのぞいてみよう!

5月

飛来

6月

巣箱選定

産卵

抱卵

7月

子育て

8月

巣立ち

旅立ち

5月初め

ブッポウソウが巣箱に帰って来た!

足輪の装着により、親鳥が去年と同じ巣箱に戻ってくる可能性が高いことがわかりました。ペアは、毎年変わるのか、ずっと同じなのか...これからの調査で明らかになってくると思います。



5月末

卵を産みます。

1日1個ずつ、1日おきに産みます。産卵数は、2~5個で、大半の巣箱は4個です。ニワトリと違って、午後に卵を産みます。

卵の大きさ(実物大)

ブッポウソウ

ニワトリ

オスがメスにエサを運んで、求愛給餌(プロポーズ)をします。そして、交尾を行います。

オスとメスは、姿が似ていて見分けがつかいません。しかし、この時期は、餌をあげているのがオス、もらっているのがメスと見分けることができます。



ニワトリの卵と同様に白色で同じような形をしています。卵の重さは、約12gです。

すべての卵を産み終えてから、平均21日間抱卵。

昼間は、オスとメス交代しながら、夜はメスが卵を暖めます。



抱卵中は、巣箱に入ると数時間出てきません。時々卵を動かして、すべての卵を均等に暖めます。

抱卵中の鳥のお腹は、羽がない!!

卵に熱がよく伝わるために、お腹の部分は羽がありません。普段は、周りの羽で隠れているので、見ることはできません。

6月末

ヒナの誕生



目はまだ見えません。丸裸で体温調節ができないため、メスが暖めます。



約1週間後
目が見え始めます。

約2週間後
羽の基本となる羽軸が生えそろう、トゲトゲになります。

約3週間後
羽が段々そろってきます。



餌の内容



ブッポウソウは、昆虫食。空中で飛んでいる昆虫をかすめ取るように獲ります。このようなエサの獲り方を「フライキャッチ」といいます。鋭いくちばしで、硬い甲羅をものとしません。

コウチュウ目

(カナブン、タマシ、ゴマダラカミキリなど) エサの種類の中で1番多く、とくにコガネムシ科が多いです。クワガタムシやカブトムシは、角の部分をちぎって、巣へ運んできます。



カナブン

カメムシ目セミ科

(ニイニゼミ、ヒグラシ、アブラゼミなど) それぞれのセミの発生時期に合わせて、運んでくるセミの種類が異なります。



アブラゼミ

トンボ目

(オニヤンマ、ギンヤンマ、コオニヤンマなど) オニヤンマを多く運びます。ヒナが大きなオニヤンマをそのまま呑み込んで行く様子は迫力があります。



オニヤンマ

その他

(バッタ、カタツムリ、貝殻など) カタツムリは、朝露の動き出す時間帯に集中して運びます。



セトウチマイマイ



最初のヒナが孵化して、平均26日後に巣立ちします。

巣立ったばかりのヒナは、黄色いくちばし、暗い青色の羽をしており、他の鳥に襲われないように、目立たない色をしています。



親鳥とヒナでは、くちばしの色がこんなに違う! この時期になると、ブッポウソウが数羽集まっているときがあります。ぜひ、くちばしを見て、親鳥なのかヒナなのか、確認してみてください。



巣立ちすると、巣箱には戻って来ません。

ヒナが飛べるようになったころ、旅立つ前に巣箱の周りを鳴きながらグルグルと舞って帰っていく様子は、感動的です。来年も同じ巣箱に戻ってくるために、場所をしっかりと覚えているのかもれません。

ヒナは大きくなったら、どこに帰ってくるのか? 親鳥が去年と同じ巣箱を利用する可能性があることがわかりました。そうすると、ヒナはどこへ行くのか...? 2011年からヒナに足輪を装着しました。足輪をつけたブッポウソウが帰ってくると、新しいことがわかりそうです。